

資料 2

委員からの主な意見

委員からの主な提案・意見

【ダイヤ】

伊根を早く出るバスに乗って福知山、舞鶴、京都へ行く場合、バスと列車との連絡ができていないため、待ち時間が長時間になる。接続を改善できないか。

地元にとっては、利便性最優先のダイヤがよいが、観光客にとっては「乗り換え」の空き時間も思わぬ発見があって楽しいものであり、平日と土日祝で接続時間を変えてみてはどうか。

季節毎に、その土地らしいイベントと関連した列車を走らせるのは魅力創出につながるため、「浴衣の日」に浴衣で乗車したり、「カニ解禁日」にカニに関するクイズの正解者にプレゼントを配布するなど記念列車を運行してはどうか。

【運賃】

「早割」、「朝割」、「家族割」など、携帯電話などの世界でも、一人十色の使い方に応じた料金体系が充実してきており、ユーザー視点に立った、「商品造成 柔軟な運賃設定」を行うことは、結果、全体売上増に繋がるのではないか。

分かりやすく記憶に残りやすい運賃体系にするため、50円刻み、100円刻みの運賃にしてはどうか

観光周遊チケットやレンタカーとセットになった周遊切符の販売をしてはどうか。

【駅・停留所】

観光客にとって、帰りの電車に乗り込むまでのショッピングタイムは、旅の最終仕上げ。そこでしか買えないお土産があるとうれしいし、ファン、リピーターを生むので、地元の女性の手づくり菓子、地酒(限定パックなど)、弁当やおかずになる食材を販売してはどうか。

四季を代表する花を路線全体に植えてはどうか。(6月はアジサイ列車7月～8月はひまわり列車として運行) <紅葉、桜等の植樹の意見もあり>

利用客の多い主要な駅の連絡通路には、高齢者や障害者のためにできるだけエレベータ等の昇降装置を設置してはどうか。少なくとも、「杖」を配置するなどの配慮をしてはどうか。

【車両】

電車(やバス)の中も、旅行者にとっては「旅先」の情景の一つ。簡素なだけでなく、今、既に貼り出している「土地の風景写真」を季節毎に更新するなど、その土地らしい演出をしてみてもどうか。これだけでも、ちょっとしたサロン気分になる。

もっと丹後半島の美しい自然・景観を見ていただくため、また、列車自体に話題性を持たせるためにもトロッコ列車のような大人もワクワクするようなものを考えていくべきではないか。(嵯峨野トロッコ列車・SLやまぐち号・叡山電鉄きらら号等)

多客時の事故防止のため、つり革を設置し、一部座席以外は横置きベンチシートを取り入れてはどうか。(座席回転作業の省力化、混雑時に荷物を座席に置き難くするため。)

【情報提供】

ホーム表示がなく、列車の発着ホームの案内が判りにくい。使い慣れない者にとって、バスの路線は本当にわかりにくいので、バス停留所やバス車内に、路線図を表示してほしい。ほか

KTRのホームページで、時刻表の検索がしにくい(宮津線・宮福線)。特に20代～30代の観光客にとっては、有効情報になり得るものなので、もっと力を入れるべきではないか。

各旅館のパンフレットの中に、お客に便利な数本の行き帰りの時間表及び料金表を添付してもらおう協力を求めているどうか。

【その他】

1泊旅行の観光客にとって、2日目に荷物を持って観光に回るのはストレスで、「荷物を持って歩くのがイヤだから自家用車で行く」という人も多い。たとえば、伊根に泊まった客の手荷物を指定の時間までに天橋立駅や宮津駅に搬送、客は電車の時間まで手ぶらで観光できるようなサービスが考えられないか。

乗務員や駅員等の接客態度について、利用者が不快に感じることもある。ホスピタリティーの改善・向上のためにも、鉄道関係職員の研修が必要ではないか。

利用者のマナーが悪いと言われている中で、学生に限らず、大人も荷物を横に置いて、横に座られたら困るかのように平然と座っている。利用者同士が気持ちよく利用できるような啓発の取り組みをすべきでないか。